

岡山県岡山市「夢二郷土美術館」

夢二郷土美術館学芸スタッフ：木村崇史

1) 東日本大震災によって、活動に何か影響がありましたか？

- ・ 建物および作品資料などに、地震による直接的な被害はない。
- ・ 震災発生からしばらくは入館者数がふるわなかった。
- ・ 全国的に自粛ムードが漂っているためか、今後も伸び悩むおそれがある。
- ・ 特に外国人旅行者が少なくなった印象がある。

2) 震災地域への支援について、既実施したことや今後の予定、やりたいことなどがありましたら、お書きください。

- ・ 美術館HPにお見舞い文を掲示。
- ・ 美術館受付に日本赤十字社の義援金ボックスを設置。
- ・ 9月16日に開催する「竹久夢二誕生日祈念ハーブコンサート」の収益の一部を、日本赤十字社を通して東日本大震災の被災地復興の義援金として寄付する。
- ・ 両備グループの呼び掛けによる救援物資の募集に協力。館内の有志から物資提供。

3) 被災地域で文化活動に関わる方へメッセージがありましたらお寄せください。

大正12年9月、竹久夢二がかつて関東大震災を経験した際、自身も困窮した生活を送る中で「うつくしいものを最も要する時ではないか」と日記に記しています。箇条書きに近い日記の文章から夢二の真意を汲み上げるのは難しいですが、彼はうつくしいもの、すなわち文化が持つ力について訴えようとしていたのではないのでしょうか？

今回のような大規模な災害時には、炊き出しや救援物資、居住地の確保などの被災者への物資支援がまず最優先でなされるべきですが、それら衣食住の支援がひと段落した次の段階で、心的支援が必要となってきます。その際、カウンセリングなどメンタルケアはもちろんのこと、文化活動も大きな柱となりうるのではないかと思います。絵やお芝居を見たり、音楽の演奏を聞いたり、歌ったり踊ったり—こうした文化活動ではお腹を満たすことはできないけれど、心を満たすことはできるでしょう。心が満たされると明日を生きる活力が生まれてくるものです。